

## 平成 31 年度事業報告書

平成 31 年度の当センターは、第六次中期計画のスタートの年であり、6 月に改選された役員を中心に新たな気持ちで事業拡大に取り組みました。年度中、大型台風を含む悪天候の影響や、新型コロナウイルス感染症対策による活動制限がありましたが、実績は契約額、会員数ともに前年度を上回る結果となりました。

まず、契約額につきまして、「請負・委任」「派遣」事業の合計値で、前年度比 2.2%増の 1,032,090,724 円と微増に留まりました。内訳は、「請負・委任」事業が前年度比 1.8%増の 959,984,306 円で、伸び悩んだ要因としては、屋外作業を中心に天候不順による契約件数の減少と、感染症対策として実施された事業停止の影響等によるものです。一方「派遣」事業については、新たに 10 件の契約を結び、前年度比 8.6%増の 72,106,418 円となっています。

次に、会員数ですが、2,866 名と前年度比 62 名増となり、2 年連続プラスの好結果となりました。これは、高齢法改正の要因もあり入会者の減少が続いていた中、チラシの全戸配布等の会員拡大に向けた諸施策や、退会希望会員に対する細やかな相談による抑制策等が功を奏したと思われまます。ただ契約額を含め、第六次中期計画の目標値に大きく達しておらず、引続き積極的な施策を講じていく必要があります。

また、安全就業につきましては、前年度に増加の著しかった賠償事故が更にそれを上回る 13 件となり、傷害事故と合わせ前年度比 2 件増の 32 件の結果になっています。背景に会員の高齢化がひとつの要因として考えられており、“安全は全てに優先する”シルバーとして大変憂慮すべき事態となっています。

なお広報周知活動は、新たにバス車内でのデジタルサイネージの活用や、屋外作業向けビブスの着用等、チラシの全戸配布とともに積極的な事業展開を行いました。ただ残念ながら 40 周年記念事業の主要企画とした「シルバー交流まつり」は、感染症対策の一環として開催を延期することとしました。また、ボランティア活動についても、全市的に展開をした「市内一斉美化清掃」が雨天の影響により参加者が減少する等、結果 420 名の参加となりました。

“夢が膨らむシルバー人材センターを目指して”のスローガンのもと、地域に根差した事業を行う公益法人として、難しい状況の中でも今日まで活動が出来たことに対し、町田市を始めとする行政並びに上部団体のご支援とご協力、市民の皆様のシルバーへの深いご理解とご協力、そして会員の皆様の真摯な活動の賜ものであると、ここに改めて感謝申し上げる次第です。

項目別には、以下のとおりです。

## 1. 広報・周知活動

- (1) 会報誌「銀齢だより」を全会員に6回配付し、センター動向や会員活動等の情報共有を図りました。また、より新しい情報を届けるため、「シルバーエイジニュース」や、地域班長向けに毎月「センター短信」を発行しました。
- (2) シルバー事業の周知や理解を深めるため、パンフレットの配布並びに公共施設等にポスター掲示とともに配架をした他、町内会・自治会の回覧板(約12,000)に2回挟み込みを行ないました。また新しい試みとして、会員拡大に特化したチラシを作製し市内全戸に配布した他、バス車内においてデジタルサイネージを活用したCM放映を行ないました。  
更に、ホームページについては、より利用者目線での改善を行なうためリニューアルすることとしました。
- (3) 地域誌等への掲載は、市の協力により「広報まちだ」に入会説明会の案内や講習会事業の募集等で5回、また「タウンニュース」等の地域ミニコミ誌に載せていただいた他、「町田市民ホールコンサートガイド」とのパートナー掲載や、住宅地図への全ページ広告、更に「NTTドコモ町田忠生支店」のご協力により封筒への広告掲載を行ないました。
- (4) イベントの開催並びに参加は、主催事業の「シルバー交流まつり」は新型コロナウイルス感染症対策の一環として延期をしましたが、町田市の共催として「シルバー展」(来場者315名)の他、市内各種のイベント(まちカフェ!、エコフェスタ、南カフェ、南地区福祉フェア等)に参加をしました。更に、(公財)東京しごと財団主催の「小田急不動産合同イベント」(小田急百貨店新宿店)や「これからシルバー応援フェスタ」(狛江エコルマホール)に参加をしました。  
また新たな踊り宣伝チームについて、「東京五輪音頭・2020-」を題材に検討を始めました。
- (5) 設立40周年記念事業関連は、延期となった「シルバー交流まつり」の他、次年度に向けた“まちだ〇ごと大作戦チャレンジ事業「人生100年時代 笑顔あふれる2020年まちだは元気大作戦!!」のイベント企画や、「設立40周年記念誌」発行の検討を行ないました。
- (6) 屋外作業班を中心に、市民へのPRを図るため、ビブスの貸与を行ないました。
- (7) 「シルバー連絡所」看板を役員・班長宅を中心に計64か所設置しました。
- (8) ハローワークにおける「シニア職業ガイダンス」において、入会案内を計36回行ないました。

## 2. 就業拡大・適正就業

- (1) 就業拡大とともに、請負や委任契約に馴染まない注文に応えるための「一般労働者派遣事業」は、51 現場、延 15,399 名の実績となりました。
- (2) 地域の自主的な会員活動として受注拡大を目指す「一人一紹介運動」は、32 班 48 件の協力がありました。また契約額における民間比率においては、公共事業の指定管理者への移行の影響もあり、1.8 ポイントの増加となりました。
- (3) 女性会員向け職種は、保育補助や介護補助等の派遣事業を中心に拡充・拡大を図りました。
- (4) 同一作業場所における長期継続就業会員の是正について、「共働・共助」の理解を得ながら実施をした結果、17 名が交代となりました。また施設管理等の特定職種について、新たにエントリー制を開始し、30 名のエントリー中、9 名の就業が決定しました。
- (5) 法令順守等の適正就業について、国の示すガイドラインの理解を深めるため、会員には定例日研修等、発注者に対しては書類等を通じ周知を行ないました。
- (6) 除草並びに植木剪定作業等の契約について、会員の能力に応じた就業、並びに発注者に対する公平性を担保するため、請負形式への移行を試験的に始めました。
- (7) 「会員の就業要領」の見直し（運転者の年齢等）の検討を行い、次年度見直すこととしました。

なお大型受注における地域班の展開事業は、以下のとおりでした。

・ごみ袋無料配付	実人員	345 名
・公園除草（春）	〃	330 名
・「ごみ収集カレンダー」配布	〃	351 名
・公園除草（秋）	〃	315 名
・「ちょこっと共済パンフ」全戸配布	〃	347 名

## 3. 調査研究・相談

- (1) 就業相談について、毎月の定例相談会を 21 回実施し、延 182 名の相談がありました。また未就業会員を中心に臨時の相談会を 3 回実施（67 名）しました。
- (2) 「健康寿命」「資産寿命」を会員本人がセルフチェックできるWEBアンケートは、利用率の低迷から見直しすることとし実施をしませんでした。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策を中心に、事業の継続性等のリスク管理の検討に入りました。

(4) グループで働く新たな自主事業については、次年度の検討案件としました。

#### 4. 研修・講習

(1) 入会説明会について時間帯を変更し、同日に定例日研修が受講できるよう見直しをしました。また堺市民センターにおいて出張の説明会を行いません。なお3月の説明会については、新たに企画をしていた女性限定説明会を含め、感染症対策により中止としました。

(2) 定例日研修（マナー、安全就業、適正就業）を、全ての新入会員並びに既会員を対象に23回（330名）実施した他、ごみ袋無料配付やシルバーパス未経験者、又学校管理就業者を対象にマナー研修を実施しました。

(3) 「認知症の家族介護者調査報告会」を地域班長向けに開催（76名）した他、新任地区担当委員研修（11名）及び新任地域班長研修（18名）を開催しました。

(4) 仕事別グループについて、自発的なミーティングを奨励するとともに、グループ会議や研修を82回（延1,448名）開催し、円滑な就業環境の確保並びに作業の標準化及びレベルアップを図りました。

(5) 受注の多い技能系職種について、植木剪定＜初級＞講習）並びに「刈払機操作研修会」を企画しましたが、感染症対策等により延期としました。また（公財）東京しごと財団実施事業である体験講習等は、「お庭の手入れ」「わかりやすい障子の張替え」を市内で行ない、全面的に協力しました。

(6) 地域の支え手にシルバー会員がなれるよう、「認知症サポーター養成講座」について定例日研修時に実施（23回）しました。また、認知症当事者の講話やグループ討論を行う「まちだDサミット2」に参加しました。

(7) （公財）東京しごと財団の研修には、「ハウスクリーニング」「子育て支援」「包丁研ぎ」「接遇」「毛筆筆耕」「パソコン出張サービス」「植木の剪定」で計13回（21名）会員が受講した他、役職員研修に計17回（34名）参加をしました。また第七ブロック主催の研修や他組織の講習には、役職員を中心に計21回（36名）参加しました。

(8) （公社）滋賀県シルバー人材センター連合の「職員基本素養調査研究会」において、当センターが講演を行いました。

#### 5. 組織整備・活性化

(1) 定例理事会を11回開催した他、臨時理事会を2回、また書面によるみなし決議を2回行ない、重要案件の決定や諸規定の整備等を行ないました。

(2) 専門委員会は感染症対策のため中止した3月を除き毎月開催し、所掌事

項の討議を行ないました。また合同委員会を2回開催（延67名）し、情報共有を含めた連携の強化を図りました。なお、「会員拡大委員会」は6月を以って休会としました。

- (3) 役員・地区担当委員・地域班長の合同会議を開催（108名）し、事業報告を含めたセンターの現況・課題、また今後の方針について認識を共有しました。
- (4) 地域班の役割や、その活動における課題について意見交換を行うため、地区担当委員・地域班長を対象に「会長・副会長サロン」を全5地区で開催（89名）をしました。
- (5) 地域連絡会は、市内65班で開催し、複数実施の班を含め延454名が参加をしました。また感染症対策として2月下旬からの開催は取りやめとしました。
- (6) 入会促進並びに“仲間づくり”を中心とした既会員の退会抑制策として、「共助会」組織の協力をいただきました。
- (7) 清掃職のグループ化は体制作りの着手に留まりました。
- (8) 大型受注における事務局のあり方について、あおぞら会館の閉鎖に伴う場所の変更を含め、体制についての検討を行ないました。
- (9) 定時総会における表彰方法について見直しを行ない、時間短縮を図りました。
- (10) PCやスマホ等を活用し、最新情報の閲覧や配分金の明細の確認等が出来る「Smile to Smile（通称：スマスマ）の利用促進を図りました。

## 6. 財政の安定化

- (1) 発注者の代金支払いについて、資金回転率の向上や未収金問題の改善、窓口業務の軽減を図るためのコンビニエンス振込み手続きは、11,402件（94.6%）となりました。
- (2) 支払いの利便性並びに事務の軽減を図るための会費の自動引落しは、多くの会員の協力を得て2,647名（92%）となりました。
- (3) 会報誌「銀齢だより」紙面における一般有料広告は、4社からの依頼があり、延17枠の広告掲載となりました。
- (4) 業務の効率化や経費削減等の自助努力と並行しながら、行政に対して公的補助の維持・増額の理解や支援の働きかけを行ないました。
- (5) 専門委員会における重点取組等を明確にするための予算反映を行ないました。

## 7. 安全管理

- (1) “安全は全てに優先する”の基本理念のもと、組織一丸となって“ノー

トラブル・ノークレーム”を目指しましたが、残念ながら保険該当事故で前年度比 2 件の増加となりました。

- ・ 傷害事故 19 件（前年度比 2 件減）      うち経路途上 7 件
- ・ 賠償事故 13 件（前年度比 4 件増）

- (2) 「安全フォーラム」を 2 回発行した他、リーフレット及び図解入りの「転倒しにくい体づくり」の配布等、全会員に対し安全就業に関する情報の周知を行ないました。また安全意識を高めるため、ポスターの掲示や、「安全標語」並びに「ヒヤリハット体験記」の募集を行ないました。
- (3) 仕事別グループの説明会や研修において、安全情報の提供や安全の講義を行ないました。
- (4) 各現場における就業前の準備体操について、安全巡回等を通じて奨励を行ないました。
- (5) 安全意識の向上と、事故発生時の救援に役立てる目的で、緊急連絡先入りの「安全心得カード（オレンジカード）」所持の徹底を図りました。
- (6) 安全就業に関連した研修は、職種班向けの「フレイルチェック会」を 2 回（延 45 名）や健康増進イベント「甘く見ないで！！風邪の症状」（29 名）を開催した他、従来の「健康ウォーキング」に代わり、新たに認知症予防に効果的な「ソーシャル（ノルディック）ウォーキング」（31 名）を実施しました。また派遣会員を対象に「個別健康相談会」（6 名）を実施しました。なお転倒予防講習を含む職種班向けの研修（除草、植木）は、感染症対策として実施しませんでした。  
また（公財）東京しごと財団や第七ブロック等が主催した研修には、「安全就業研修会」や「ひざスッキリ体操」等、合計 7 回（13 名）受講しました。
- (7) 「安全巡回」を計 11 回（30 ヶ所）実施した他、重篤事故につながる可能性の高い植木剪定班には別途 5 回（15 ヶ所）実施しました。
- (8) 酷暑期における熱中症予防の情報提供として、『注意喚起！！…「暑さ指数」と「熱中症」』を全会員に配付しました。
- (9) 事故に関連する会員（24 名）に聞き取りを行い、再発防止策の検討を行ないました。
- (10) センター全体の安全就業の現況や、仕事別グループ毎の安全対策の共有を図るため、職種横断的な「安全大会」を開催（53 名）しました。

## 8. 社会奉仕活動

- (1) “ボランティア全員参加”を目指し、地域班を中心とした活動の推進を図った結果、以下の実績となりました。
  - ・ 延人数 1,839 名（前年度比 320 名減）
  - ・ 実人員 420 名（前年度比 57 名減）

なお「市内一斉美化清掃」については、雨天の影響により中止した地域班がありましたが、34地域において主要道路等のごみ清掃や公共看板の清掃等を行ないました。

- (2) 「町田警察署」並びに「南大沢警察署」との協定に基づく防犯活動支援について、特殊詐欺防止キャンペーンや防犯パトロール等、積極的に参加をしました。また市民ホールで行われた「町田地域安全のつどい」に参加し情報収集を行ないました。
- (3) 町田市ホームタウンチーム「FC町田ゼルビア」や、「関東パラ陸上競技選手権」等の試合運営の支援を行ないました。
- (4) 福祉施設を中心に、「お囃子」等の出張ボランティアを行ないました。
- (5) 公益性の高いボランティア活動として、「日本赤十字社献血運動支援」や「認知症サポート活動支援」等を行ないました。
- (6) 町田市との協定に基づくシルバー業務中の「高齢者見守り活動」は継続して実施しました。
- (7) 未来を担う子どもたちへの支援として、「昔遊び」や「学習支援」等の学校支援活動を行なった他、寄付を受けた文房具の大学への寄贈（ノートや筆記用具等 計 588点）や、南地区で行われた「ハロウィンイベント」の運営支援を行ないました。
- (8) 仕事別グループによるボランティア活動は、パソコン班のみでした。

なお、ボランティア活動の実績は、以下のとおりでした。

・地域班ボランティア（美化清掃等） ＜森野・中町・三輪町・旭町・本町田・小山田桜台・小山町・原町田・木曾西・木曾東・相原＞	延 547 名
・市内一斉美化清掃（34地域）	208 名
・町田・南大沢警察署防犯活動等支援ボランティア （町田市官民合同パトロール含む）	延 287 名
・町田ホームタウンチーム試合運営支援等 （FC町田ゼルビア・ラグビーフットボール協会・関東パラ陸上競技会）	延 286 名
・お囃子（シルバー連町田）	延 66 名
・日本赤十字社献血運動支援	延 170 名
・認知症サポート活動支援	延 21 名
・さくらまつり運営支援	12 名
・学校支援活動（小学校 24校、中学校 2校）	延 182 名
・ハロウィンイベント支援	7 名
・職種班ボランティア（パソコン）	延 53 名

以 上